

校内研究実践報告

I 概要

1 研究主題

主体的・対話的で深い学びにつながる授業と評価 ～学びあいの学習を通して～

R2年度 : 主体的に取り組む生徒を育てるための手立て

R3年度 : 主体的・対話的に深く学ぶための授業づくりと評価について

R4年度 : //

2 研究のねらい

学習指導要領改訂の内容の理解と実践のため

- ① 育成を目指す資質・能力の3つの柱
(学びに向かう力, 人間性等 / 知識及び技能 / 思考力, 判断力, 表現力等)
- ② カリキュラム・マネジメント
(学校教育目標を踏まえた教科横断的な視点)
- ③ 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくりと評価について

3 R2年度の研究方法

- ① 講師による講話(年3回を予定)や, 講話を基にした授業参観を実施して改善を図る。
- ② 次年度の新学習指導要領の実施に向けて, 4グループに分けて研究を進める。
第1グループ: 国語科+英語科
第2グループ: 数学科+理科+社会科
第3グループ: 保健体育科+美術科+音楽科+技術・家庭科
第4グループ: 特別支援学級
- ③ 前期・後期にそれぞれ校内研究授業月間を設ける。
前期: 6～7月 各グループの推進委員から1名
後期: 9～11月 前期の発表者以外の全職員
- ④ 新学習指導要領に照らし合わせ, 各教科で統一した年間指導計画(千代中学校「学びプラン」)の作成を行う。

4 その他

① H31 年度まで 3 年間実施した「千代中スタンダード」の可能な範囲での継続

千代中学校スタンダード

【説明スタンダード】

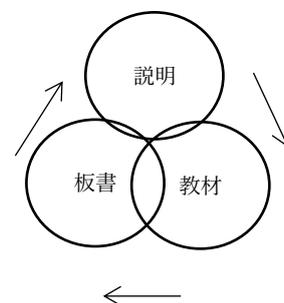
- 見てわかる説明を心がける（視覚）
- 聞く姿勢を作って説明する（聴覚）

【板書スタンダード】

- 黒板には授業に必要なものは一切掲示しない
- 授業 1 時間分の板書は黒板 1 枚程度とする
- 「本時の目標（めあて）」「本時のまとめ」を明確にする

【教材グループ】

- 学ぶ意欲を引き出すための教材を使用する



② 教科年間計画表の掲示及び定期的な朱書き訂正

II 成果と今後の課題

1 年間の研究を通して、各職員が学習指導要領改訂に関する指導上の要点を理解することにつながった。特に、主体的に学習に取り組む態度（第 3 観点）について、「何を評価するための観点なのか」や「生徒のどのような姿を見とるべきなのか」等、次年度から新たに加わる観点を理解するための機会を設けることができた。講師（横浜国立大学附属横浜中学校より）を招き 2 回の研修会を企画したことで、各職員が次年度の評価を見越した準備をするための手助けができた。また、新学習指導要領に照らし合わせた年間指導計画（千代中学校「学びプラン」）の作成も進み、「学習の見通し」や「身につけたい力」を明確にして生徒に伝えるための準備が整った。生徒への教科指導をするうえで、生徒自身に見通しを持たせることの重要性を理解することにつながった。

今後の課題に関して、引き続き第 3 観点へのアプローチが必要である。「主体的に取り組む態度の変容をいかに見とり評価していくのか」や「取り組みの過程をどのように評価していくのか」等、各教科で足並みをそろえて研究を進めたい。各教科の特性を関連付けながら、主体的・対話的に深く学んでいる姿を各職員が明確にイメージできるよう、その研究ができる機会を設けることに努めたい。